

FTEM(アスリートパスウェイ)の推進にあたって

FTEM推進会議からの提案

推進会議日時 令和7年5月15日 13:00-17:30
 会場 山梨学院大学
 参加者(提案者) 寺本 祐治(FTEM推進室長)、馬場 治男(本資料文責)
 アドバイザー 小山 勝弘(山梨学院大学教授/スポーツ科学部学部長/柔道)
 麻場 一徳(山梨学院大学教授/東京五輪時強化本部長/陸上競技)

① JHAへの提案・周知・同意形成

- (1) 理事会(5/20)にて総会場で提案することについて確認 《永井本部長》
- ・ FTEM構築については2022(R4)年度よりJSCの指導のもと構築作業を始め、昨年度(R6年度)に「パスウェイマップ(コーチ・関係者用)」が仕上がりました。
 - ・ 昨年度、FTEM(コーチ・関係者用)については理事会で承認されています。
 - ・ JSCからもFTEMアドバンスプログラムを経て内容の承認を得ました。
- ※上記によって、JHA内で周知する手続きが整い総会(6/14)の場で発表します。
 ※最新版_FTEM (JHA_コーチ・関係者用) は下表となります。(総会では別紙)

Athlete Development Pathway

アスリート育成パスウェイ | 種目名: ホッケー

FTEM 段階	Foundation			Talent				Elite			Mastery
	F1	F2	F3	T1	T2	T3	T4	E1	E2	E3	M
FTEM 目標のイメージ											
アスリートがどんな成長を遂げるか	外遊びの経験を通して、敏捷性やしなやかな身のこなしを育む	体験会でホッケーを経験するクラブや部活動に所属し、ホッケーの基礎技術を身につける	チームやクラブに所属し、国内競技大会に参加して、ホッケーを楽しむ	地区選考会を経て、年代別日本代表選手(U12,U15)を目指す	JHAエリートアカデミーや年代別日本代表に選出される(U12,U15)	年代別日本代表選手に選出される(U17,U18)	サムライ・さくらの代表候補選手に選出される	サムライ・さくらの選手に選出される	サムライ・さくらの中心選手としてオリンピックでメダルを獲得する	オリンピック、ワールドカップでメダルを獲得する	オリンピック、ワールドカップで複数回、メダルを獲得する
どんなアスリートを目指するか	外で活発に遊ぶのが好きで用具を使う遊びを楽しむこと	ホッケーなどのチームスポーツを経験し、仲間と練習しながら勝利することを楽しむプレーヤー	ルールや基本的な技術を学び、チームを意識したプレーを実践できるプレーヤー	自主的にトレーニングに取り組みながら、年代別代表選手にチャレンジするアスリート	チームメイトと協力し、社会性や創造性を育みながら、年代別代表選手にチャレンジするアスリート	主体的にトレーニングに取り組み、ホッケーに必要なスキルやフィジカルを身につけ、サムライ・さくらを目指しているアスリート	強いメンタルを身につけ、年代別の国際競技大会を経験しながら、サムライ・さくらを目指しているアスリート	競技に専念しながら日本代表としての自覚を持って、国際競技大会で活躍しているアスリート	サムライ・さくらにおいてリーダーシップを発揮して、中心的な存在となるアスリート	オリンピック、ワールドカップでメダルを獲得し、国内のアスリートから僅れの存在となるアスリート	世界のロールモデルとして、FIH Player of the yearに選出されるアスリート
どんな人が支えているか	家族、友人、教員	家族、友人、教員、所属チームスタッフ、地方協会(PF)	家族、友人、教員、所属チームスタッフ、地方協会(PF)	家族、友人、教員、所属チームスタッフ、JHAアンダーカテゴリースタッフ、地方協会(PF)、地域TID	JHAアンダーカテゴリースタッフ、所属チームスタッフ、地方協会(PF)、地域TID、家族、友人、教員	JHAアンダーカテゴリースタッフ、JHA代表チームスタッフ、所属チームスタッフ、地方協会(PF)、教員	JHA代表チームスタッフ、所属チームスタッフ、日本リーグ機構、国際審判員	JHA代表チームスタッフ、所属チームスタッフ、日本リーグ機構、国際審判員	JHA代表チームスタッフ、所属チームスタッフ、日本リーグ機構、国際審判員、スポンサー	JHA代表チームスタッフ、所属チームスタッフ、国際審判員、スポンサー	JHA代表チームスタッフ、所属チームスタッフ、国際審判員、スポンサー

(2) 総会(6/14)での提案内容について = 説明内容 =

《提案者：永井本部長、補足説明：寺本室長》

- ①FTEMとは、オーストラリアで開発されたFTEMフレームワークをもとに、JSCが科学的な根拠に基づいた【普及・発掘・育成・強化】を推進するために日本の競技スポーツの基盤を踏まえたパスウェイマップです。
- ②JHA強化育成本部では、JSCの指導の下、普及・発掘・育成・強化のパスウェイマップとしてFTEMの構築に2022年(R4年)より取り組んできました。昨年度、JSCが主催するアドバンスプログラムを経て完成した「FTEM(コーチ・関係者用)」について使用(公開)することをJSCに承認されました。
- ③今回提案させていただいた「FTEM(コーチ・関係者用)ver.1」は、まだまだ改善の余地が多々ある第1版です。
今後、このFTEM_ver.1を意識した現場レベルでの取組(普及・発掘・育成・強化)をしていただくことにより、多くのご意見をいただきながらブラッシュアップし、数年かけて完成版を構築していくことを目指します。
- ④今後、FTEM推進室に加え、各カテゴリーや指導者育成部と連携した検討委員会を組織し(各カテゴリーを代表する検討委員を招聘し)現場レベルの実態を加味したコーチ・関係者の指針として完成させます。
- ⑤具体的な取組としてU15代表選考会(1次選考：3地区による選考⇒中央選考)およびエリートアカデミー選考においてFTEMに位置づけた実践を先行的(試験的)にR6年度より実施しています。《詳細は下記参照》

FTEM推進に連携したU15選考の流れ《改定案5 / 20250223_U15カテゴリー部会_第2回常任理事会説明資料》



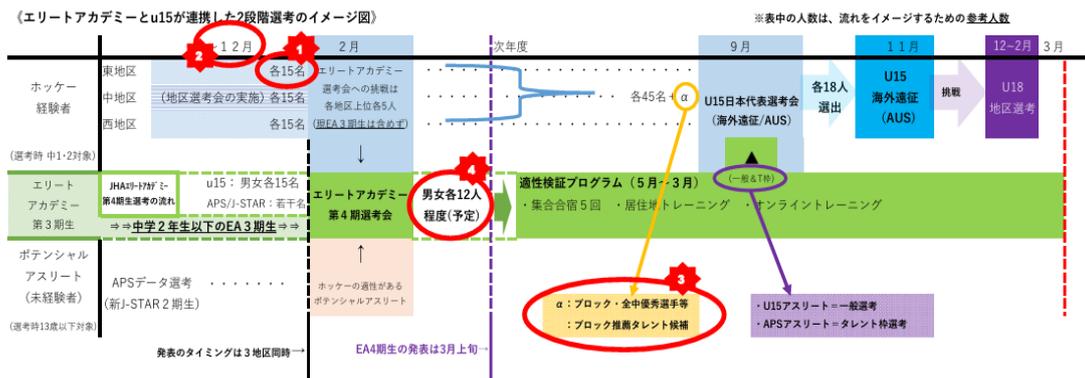
《全体コンセプト》

- ・U15選考会を、エリートアカデミー発掘事業と連携しFTEM (T1-T2段階) に位置づける。
- ・選考会(高い志を持つアスリート同士の競い合い)に参加することが強化に結びつくという信念に基づき選考会の段階を増やす。
- ・U15選考会を、今までの中央1回から、①地区(東・中・西の3地区)～②中央の2段階選考にする。
- ・地区選考会の会場は状況に照らし合わせて検討する。⇒R6年度は、東：栃木県・中：滋賀県・西：愛媛県で実施
- ・U15日本代表の対象年齢(学年)を中学3年生限定を解除し中学2年生以下からも選考できることとする。⇒1次選考には中学1-2年生が参加！(早期発掘・早期顕在化)

《エリートアカデミー候補選考コンセプト》

- ・エリートアカデミーの発掘は、経験者(U15_1次選考を利用)とポテンシャルアスリート(J-STARを利用)の双方から並行して行う。
- ・エリートアカデミー経験者枠は中学1・2年生から選考する。【第2期から/適性検証に1年以上確保のため】
- ・エリートアカデミーポテンシャルアスリート枠は、APSIに登録された14歳以下から選出する。(積極的に小学生からの選出を推奨)【第2期から/種目転向の決断をする期間を踏まえて】
- ・現エリートアカデミー生(第3期生)の中学2年生以下については、1年間の適性検証結果に併せて選考会の参加権利を与え次期継続を総合的に判断する。

《エリートアカデミーとu15が連携した2段階選考のイメージ図》



②FTEMに位置づけた具体的な取組（案）

(1) FTEMに示されているもの

F 段階(F1-3)：FOUNDATION/土台となる遊び・動作・スポーツ

T 段階(T1-4)：TALENT/ホッケーに適性のあるタレントの顕在化～育成～実績

E 段階(E1-3)：ELITE/シニア代表への選出と成功（国際競技大会での成功）

M 段階：MASTERY/シニア代表での継続的な成功（オリンピック・W杯での成功）

※今回お示した「FTEMパスウェイマップ(コーチ・関係者用)」の内容について
実践に伴う忌憚のないご意見をいただきながら、JHAの総力による協同作業
を通してブラッシュアップしていきます。

※FTEMに示された各段階において、アスリートに「どんな経験をさせるか」、
「どんなアスリートを目指すか?」ということを意識した取組(検証活動)
を全国規模でご協力をお願いいたします。

(2) キーとなる「発掘」は15歳以下のアスリートをターゲット

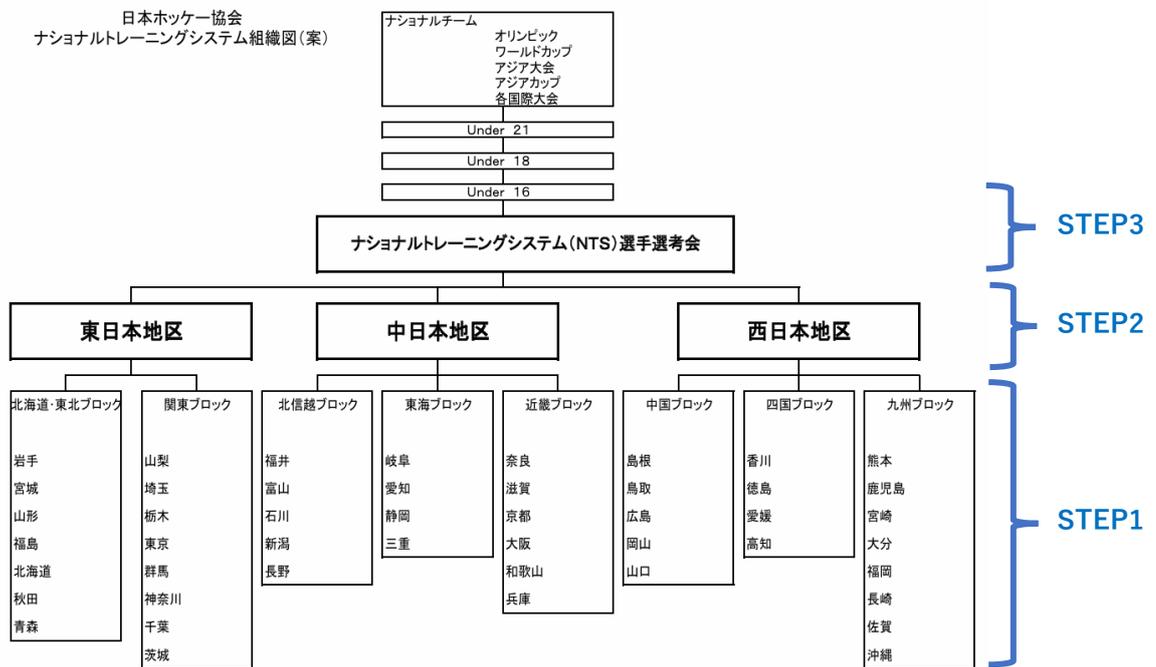
目的	普及	⇒	発掘	⇒	育成	⇒	強化
年齢目安	～12歳		～15歳		16歳～		
FTEM段階	F1/F2		F3/T1/T2		T3		T4～

- ・ FTEMでは、将来性が期待されるアスリートの発掘(適性検証)を進めるにあたって各NFが、どの年代をターゲットにして取り組んでいくかを検討することが求められています。
- ・ 推進室では、ホッケーがチームスポーツであることから、将来性の期待されるタレント候補を発掘(適性検証)するにあたって、対象年齢を15歳以下としました。
※15歳までにタレント候補を発掘し、16歳からは高校部活動(クラブチーム)
に繋ぐことがチームスポーツであるホッケー競技に相応しいと判断しました。

(3) 発掘のシステムについて (案)

- STEP1** 各都道府県・・・エリアコーチ (コーチ1以上)
- ・都道府県協会(PF)により、将来性が期待できるタレント候補を発掘
- ▽
- STEP2** 地区 (東・中・西)・・・地区ディレクター (コーチ3以上)
- ・各県からのタレント候補を集約する。
 - ・各県にFTEMに位置づけたタレント候補の顕在化について周知する。
- ▽
- STEP3** 中央・・・NFコーチ
- ・各地区ディレクターに将来性のあるタレント候補の顕在化について指導・連携を図る。
 - ・トップチーム(サムライ・さくら)から、一貫指導として連続するための情報共有と具体的な指導法の伝達をする。

《参考》2017提案/ナショナルトレーニングシステム組織図



※2017年度に寺本らにより提案されたナショナルトレーニングシステムを
FTEMに位置づけて具現化する！

